

17年ぶりに誕生したマレーバクの子の自然哺育について

矢口 茜
よこはま動物園

当園では、1999年の開園当初からマレーバクの子の飼育を行っている。No.4: 雄（繁殖時20才、2021年に死亡）とNo.8: 雌（繁殖時13才）のペアで、繁殖を目的として1年半近く同居・交尾を行っていたが、妊娠を認めなかった。当初、発情時には連日同居をしていたが、発情期の1日だけ同居させる方法に変更することで妊娠に至った。

出産までの妊娠期間408日であった。バクの子の体表模様の変化を観察するため、カラーチェッカーを用いて2-3日間隔で右側面の撮影を続けた。特徴的な“うり坊”柄は50日齢ごろから変わり始め、120日齢ごろには成獣と同じ白黒のツートンカラーに変化した。体重測定は週に1-2回実施した。出生後まもなくは10kg程度であったが、60日齢では50kg、180日齢では200kgになった。観察結果により120日齢前後に体表模様及び体重をはじめとする身体著しい成長をとげることがわかった。